

地域活動 したい 女性支援

明治大学(東京都千代田区)は地域活動への参加に興味を持っている40代から60代の鳥取県内の女性を対象に実践的な講座を通じて人材育成を手助けする「とっとりグランマ倶楽部」プログラムを実施すると発表した。

明大創始者の一人、岸本辰雄(初代学長)が鳥取市出身という縁で県と明大が交流提携していることから、文科省「学び直しニーズ対応教育推進事業」の一環で、女性の地域活動参加を促すプロジェクトを鳥取県で実施することになった。

対象は地域や社会のために役立ちたいと考えている、おおよね40〜60代の女性、異世代間交流など

鳥取県と明治大

希望している女性で、約30人を募集。

明大では6月7日から11月22日まで24回の連続講座を開き、鳥取の文化や食▽NPO活動などの現状▽コミュニケーション技法の習得▽企画書の作成指導や地域実態調査のやり方などを学ぶ。講師は、原田大二郎・明大特別招聘教授をはじめ明大の教授陣と、鳥取で地域に根ざした活動を行っている団体の代表らが務める。

希望者は県庁や各市町村に備えつけの受講申込用紙で東京・千代田区神田駿河台1-1の明大芸術・社会連携部社会連携事務室(☎03・3296・4543)まで郵送か、FAX(☎03・3296・4541)で。受付期間は5月7日から28日まで。

プログラムの愛称「グランマ倶楽部」のグランマは本来「おばあちゃん」を意味する言葉だが、明大はランドが内包する「すばらしい」「気品のある」の意味を意図して名づけたとしている。

「グランマ倶楽部」参加者募集